



## 群馬県コンクール 金賞

# かまどでたく、ぼくのごはん

沼田市立沼田北小学校 6年

松井 翔夢

おじいちゃんの家には、かまどがあります。五年生の冬休みに「ごはんをたく」宿題が出ました。多分、すい飯器でたけば良いのだけど、せっかくなので、かまどでたいてみることにしました。

まず、お米をといで、水にひたしてしばらく待ちます。その間に、まきを割ったり、すぎの葉をひろいました。一時間くらいして、火をつけました。まきをくべて火を強くしていると、おじいちゃんが、

「火が強すぎると、かまどの外に火がはみ出るから、強すぎないのがコツだぞ。」と教えてくれました。しばらくすると、おかまの中がぐつぐつ言い出しました。火をそのままにしていたら、おばあちゃんが、

「火を弱くして！こげちゃうよ。」  
と言うので、いそいでまきを引き、火を弱くしました。おばあちゃんが、

「昔の人は『始めちよろちよろ、中ぱっぱっ、赤子泣いてもふたとるな。』とって、火のかげんをしたんだよ。」

と教えてくれました。ふたをあけないと言っていたのに、おばあちゃんは、「そろそろかなあ」とか「もうじきねえ」とか言って、五分おきぐらいに何回もふたをあけて、中を見ていました。それを見ていたおじいちゃんが、

「何度もふたをあけるな。」  
と言いました。でも、おばあちゃんは、  
「ふたを何度もあけても、おいしそうなおはんがたけたねえ。」

と言って、にこにこしていました。ふたをあけると、ごはんのたけた、いいにおいがしました。ぼくは口の中につばがたまって、「早く食べたい！」と思いました。夕食の時にご飯を食べました。お父さんもお母さんも、

「おいしい。本当においしい。」  
と言っておかわりをしました。いつもは少ししか食べない弟もおかわりしました。おじいちゃんも、おばあちゃんも、ちかちゃんも、おいしいと言ってくれて、ぼくは、うれしい気持ちでいっぱいになりました。ぼくもおかわりを二回して、おかまの中は空っぽになりました。

みんなが、おいしいと言ってくれるのがうれしくて、おじいちゃんちに行くと、いつもかまどでごはんをたきます。何回もたいていたら、なれてきて、ふたをあけずにたけるようになりました。ふたのさかい目から、ぶくぶくとあわのように出てきたら、火を弱めていけばいいと、わかるようになりました。

ぼくは、これからも、みんなが笑顔になるごはんをたきたいです。